# 令和５年度　小規模多機能型居宅介護「サービス評価」　総括表

| 法人名 | 特定非営利活動法人<br>ワーカーズわくわく | 代表者 | 理事長<br>飯塚　陵子 |
|---|---|---|---|
| 事業所名 | わくわくの里 | 管理者 | 飯塚　陵子 |

| 法人・事業所の特徴 | 『住み慣れた町でその人らしく穏やかに暮らすことを支える』を理念に柔軟なプランを提供している。ターミナルケアへの対応もしており、常勤看護師中心に家族支援も含め穏やかに最期を迎えられる取り組みをしている。訪問体制も強化しており、きめ細かなサポートで在宅生活を支えている。地域連携強化に努め、地域に根差した事業所を目指している。 |
|---|---|

| 出席者 | 市町村職員 | 知見を有するもの | 地域住民・地域団体 | 利用者 | 利用者家族 | 地域包括支援ｾﾝﾀｰ | 近隣事業所 | 事業所職員 | その他 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | １人（書面） | １人 | １人 | ０人 | ０人 | １人 | ０人 | ３人 | ０人 | ７人 |

| 項　　目 | 前回の改善計画 | 前回の改善計画に対する取組み・結果 | 意見 | 今回の改善計画 |
|---|---|---|---|---|
| A. 事業所自己評価の確認 | 自己評価期間において個々の取り組みを把握し適切な評価を出せるようサポートしていく。 | 自己評価が初めてのスタッフはいなかったためスムーズに取り組みができた。期間内に提出できるよう声掛けを行った。 | 自己評価、職員の意見などをもとに改善に向けて努力している。 | 記入期間に余裕を持たせ振り返りをしっかり行えるようにする。 |
| B. 事業所のしつらえ・環境 | 玄関周辺の清潔感等、外部から見ても好印象を持っていただけるよう取り組む。 | 玄関に室内と同時に壁面飾りで明るい雰囲気を作った。インスタグラムで昼食の発信をはじめ広く情報が伝わる工夫をした。 | わくわくの里だよりでも様子がわかるが、他の事業所で動画配信など工夫しているところもある。<br>色々工夫すると良い。 | 修繕個所も増えてきているので、助成金などを利用し設備を整えていく。 |
| C. 事業所と地域のかかわり | 新型コロナの５類移行に伴い事業所の受け入れも少しづつ緩和していく。 | ５類移行も感染状況に不安はあり外部からの受け入れは消極的になってしまった。散歩など個別での外出頻度は増えた。 | コロナ禍の影響で行事等地域との交流が少なかったが、地域連携の仕掛けは工夫が必要だ。<br>交流の場を増やせるといい。 | 地域と事業所の連携を持つためのイベントを企画し交流を深める。 |
| D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み | 訪問要員を強化し地域の中でどう暮らしているかを多くのスタッフに知ってもらう機会をもつ。 | 訪問スタッフを増やしたことで地域での暮らしが見える化できた。 | 下瀬谷エリアでも認知症カフェや介護者のつどいを行っているのでそういった地域資源も大いに活用してほしい。 | 全スタッフが利用者の暮らしぶりを知る機会を持つ。地域資源にも目を向け活用に向けた話し合いを行う。 |
| E. 運営推進会議を活かした取組み | 会議への参加者が増えるよう調整していく。 | 年６回の推進会議に１名以上のスタッフを毎回参加することができた。参加することで地域連携など多くの学びの機会となった。 | 参加スタッフから質問や意見を聞くことができて良かった。<br>毎回テーマにあわせ事例検討など行っていることはとても良い。 | 地域連携強化を図りながら更に会議への参加スタッフを増やし活発な意見交換ができるよう進めていく。 |
| F. 事業所の防災・災害対策 | BCP 計画を完成させ、スタッフ間で情報共有する | BCP 計画を完成させる中で、色々な課題も見えてきて具体的な取り組みができてきた。法人全体で共有し話し合いができた | 地域にとっての精神的な支えとなれる事業所であり災害時のかかわり方も常日頃から取り組んでおくことが大事だ。 | 年１回計画の見直しを行いながら更に内容強化を図る。<br>災害に備えた備蓄品の増強。<br>訓練回数の増加。 |